

人間とは？

GW、読書をしようと思い、図書館より司馬遼太郎氏の国盗り物語を借りて読みました。司馬氏の著書は多く読んでおりますが、この代表作「国盗り物語」はまだ読んでいませんでした。「人間とは何か？」がテーマとして書いております。経営にとっても最高に役に立つ著書ですね。釈尊、法華経、日蓮宗、孔子、孟子、韓非子、マキアベリ、士官学校などの考えが書いています。

…人間とは

庄九郎（斎藤道三）とほぼ同時代のヨーロッパの戦国時代に出た策略家マキアベリは、5カ条をもって定義している。

1. 恩を忘れやすく
2. 移り気で
3. 偽善的であり
4. 危険に際しては臆病で
5. 利にのぞんでは、貪欲である

だから、第5条の利を与えるために、京の山崎屋の巨富をどんどん美濃へ運び込んで懐柔し、かつ、第4条の臆病という人間性に対しては、

「従わねば、敵として討つ」

というおどしをもってむかった。ついに蝮の本性をあらわした。なんといっても、美濃一国で庄九郎より強い武将はいないために、一国を戦慄させた。

マキアベリは言う

…**君主というものは、愛せられるべきか、怖れられるべきか。**

これは興味ある命題である。常識的に考えれば両方兼ねるがよいということになるが、その域に達するのは困難なことだ。だから君主にしてそのどちらか一つを選べということになれば、愛せられるよりもむしろ怖れられるほうがよく、またそのほうが安全である。

「蝮のほうがいい」

とマキアベリは言うのだ。愛嬌のある仔犬より、兇、猛毒をもった蝮のほうが、風雲を叱咤する場合、うまくゆくであろう

第3条の「人間は本来、偽善的である」という性質を庄九郎は見ぬいていて、

「小次郎頼英どのは、すでに守護職土岐家の長子ではなく、廃嫡されてしまっている。しかも、謀反人である。これを討つことは、土岐家に対する忠義である」と宣伝した。

人間は、つねに名分が欲しい。行動の裏づけになる「正義」がほしいのである。

欲ぼけで移り気で臆病な人間ほど、いざ新奇な行動に駆り立てられようとするとき、

…頼むから俺の行動は正しい、と言ってくれ。

という護符を、指導者に請求するのだ。

<経営のヒント>

気運が来るまで気長く待ちつつ準備する者が智者。気運が来るや、それをつかんでひと息に駆けあがる者が英雄。…それが庄九郎の信念であった。

斎藤道三、新しい時代を切り拓いた乱世の英雄。その後継者が織田信長。

「愛されるより怖れられるほうが安心」は、マキアベリの君主論の有名な一説です。

このように歴史上の人物を通じて解説されるほうが分かりやすいですね。

人間を探究するには名著（歴史小説など）との出逢いが大切と感じました。

名著は学ぶことが多いです。時間がある時には、再度じっくり読んでみたいと感じました。